

こども環境学会 2010 年大会（広島）概要報告

感性のこどもたち

— Sense of Children —

開催概要

【開催】 2010 年 4 月 22 日（木）～4 月 25 日（日）

【会場】 広島平和記念資料館東館メモリアルホール（広島市中区中島町 1-2）
広島市まちづくり市民交流プラザ・袋町小学校（広島市中区袋町 6-36）
連動会場：

旧日本銀行広島支店、広島市現代美術館、中区アリスガーデン、ギャラリー G

【主催】 こども環境学会（企画運営：こども環境学会 2010 大会実行委員会）

【共催】 広島市、広島市教育委員会、広島大学、広島市立大学、比治山大学、広島市現代美術館、広島市こども文化科学館、広島市立袋町小学校、日本ユニセフ協会広島県支部、日本都市計画学会中国四国支部、GK デザイン総研広島、くらすばワークショップ、麦わらぼうし、NPO 法人アートプラットフォーム G、NPO 法人セトラひろしま、NPO 法人 ONE PEACE（順不同）

【協力】 ACE 広島こどもボランティア隊（子どもをミソにまちづくり隊）、NPO 法人あおぞら子供神楽、古田子どもチャンゴクラブ（順不同）

【後援】 内閣府、国土交通省、文部科学省、環境省、厚生労働省、広島県、広島県教育委員会、科学技術振興機構、日本ユニセフ協会、日本ユネスコ協会連盟、日本こども NPO センター、IPA 日本支部、日本建築学会、日本環境教育学会、日本都市計画学会、日本造園学会、日本発達心理学会、日本保育学会、日本子ども社会学会、人間・環境学会、日本安全教育学会、日本小児保健協会、日本体育学会、聖徳大学、チャイルドライン支援センター、日本世代間交流協会、日本公園緑地協会、公園緑地管理財団、都市緑化基金、都市緑化技術開発機構、日本建築家協会、都市計画コンサルタント協会、日本造園建設業協会、日本公園施設業協会、全国建設室内工事業協会、広島市文化財団、広島市ひと・まちネットワーク、広島芸術学会、中国新聞社、NHK 広島放送局、中国放送、広島テレビ、テレビ新広島、広島ホームテレビ、広島エフエム放送、FM ちゅーピー 76.6MHz（順不同）

【参加者数】

賛助協賛企業団体数：45 団体

参加者数：約 1,015 人（子どもの参加者数：165 人）

【4 月 22 日（木）】

エクスカーション A 「こどものための施設見学バスツアー」

学校法人鶴学園なぎさ公園小学校、広島女学院ゲーンズ幼稚園

エクスカーション B 「新広島市民球場見学」

新広島市民球場（MAZDA Zoom-Zoom スタジアム広島）

【4 月 23 日（金）】

国際シンポジウム：平和を築く子どもたちの感性と力～広島からのメッセージ

■趣旨説明・司会：山本真左美 ■基調講演「広島に息づく緑の遺産」ナスリーン・アジミ（UNITAR・国連訓練調査研究所本部長付特別上級顧問） ■パネルディスカッション：ナスリーン・アジミ、アレックス・ムバヨ、パスマシリ・ジャヤセナ、小松真理子 ■平和記念公園を歩く～そして考える「平和記念公園ウォーク」

開会式：2010 年大会（広島）「感性のこどもたち」

■開会の挨拶：仙田満（本会会長） ■共催者挨拶：秋葉忠利（広島市長） ■大会主旨説明：千代章一郎（大会実行委員長）

国際シンポジウム：こどもにやさしいまちづくり～こどもが参加できるまち～

■趣旨説明・司会：木下勇（千葉大学） ■基調講演「我が国の成育環境の現状とこどもにやさしい都市づくり」仙田満 ■特別講演『ミュンヘン—子ども・若者の参画と「こどもにやさしい

都市」に向けて』ヤナ・フレードリヒ（ミュンヘン市子ども代理特別専門官） ■ パネルディスカッション：ヤナ・フレードリヒ、三上健、小笠原由季恵、松島隆一、磯辺省三、木下勇

【4月24日（土）】

特別講演「けんちくともども」伊東豊雄

■ワークショップ「こどもたちの平和公園」 ■ 展覧会「建築が実現するまで」

2009年度子ども環境学会賞・受賞式および講演会

24日（土）総会にて発表と授賞式が行われ、25日（日）記念講演会が行われた。

■子ども環境論文・著作賞 《論文・著作賞》 該当なし 《論文・著作奨励賞》 該当なし

■子ども環境デザイン賞 《デザイン賞》 ●原寛道ほか（千葉大学工学部デザイン学科）『地域あそび場拠点で活用するための移動式遊具のデザイン』 ●山下秀之ほか（長岡造形大学ほか）『長岡市子育ての駅千秋「てくてく」+千秋が原南公園+信濃川桜づつみ』 《デザイン奨励賞》 ●甲斐弘美（つくし保育園）『新しい保育空間の提案～もうひとつのおうち～つくし保育園』 ●長谷川仁ほか『百色の森（ももいろのもり）—子どものための医療施設への試み—』 ●船木幸子ほか（フナキチコカチセックイムシヨ・細矢仁建築設計事務所 設計共同体）『沖縄小児保健センター』

■子ども環境活動賞 《活動賞》 宮崎栄樹（木更津社会館保育園）『里山で子ども達が輝く—木更津社会館保育園』 《活動奨励賞》 上平泰博ほか（大田区子ども交流センター）『地域がつくったNPO児童館の活動—大田区子ども交流センター』 ●新田新一郎ほか（アトリエ自遊楽校）『アトリエ自遊楽校を拠点に子どもや地域の可能性を開く活動』

2010年度 総会 24日（土）広島市まちづくり市民交流プラザ

2009年度事業報告、2009年度決算報告、社団法人定款および会費改定について、2010年度役員就任、2010年度事業計画、2010年度予算計画が報告・提案され、承認された。

交流会 24日（土）

【ポスターセッション】24日（土）～25日（日）

ポスターセッション出展数：43点〔ポスターセッションA（学術研究27点）、ポスターセッションB（非営利団体の活動紹介12点）、ポスターセッションC（企業等の活動紹介4点）〕。

優秀ポスター発表賞（5点）

●遊び環境を改善するための新たな遊具デザインの方法と提案（桑原淳司） ●中山間地での活動実態における場所の持つ意味と物語性（青木一郎ほか） ●教員の業務に対応した学校空間に関する研究（中山豊ほか） ●子どもたちの創造的な遊び場をつくる環境要素（加藤寛子） ●自主保育サークル「やかましむら」の地域子育て拠点活動（北澤蓉子ほか）

【分科会およびワークショップ】24日（土）～25日（日）

テーマ1：アートな感性

■ワークショップ「森をつくろう」 ■ 分科会・ワークショップ「感性の育み方って？ わらべうたと“かべコミュ”ワークショップ」 ■ 分科会・ワークショップ「五感を目覚めさせる（遠野のわらべうたに学ぶ）」 ■ 分科会「アートな感性」 ■ 展覧会「森をつくろう」展

テーマ2：空間の体験

■ワークショップ「ひろしまとヒロシマさがし、未来づくり」 ■ ワークショップ・展示会 Children×Museum×Media「みのまわりのおいたち」 ■ 分科会 Children×Museum×Media「ミュージアムとまち、自然、メディア」 ■ 分科会「感性と鑑賞—子どもと美術作品の出会い」 ■ 展覧会「森という子育て環境を考える」 ■ キャラトークとワークショップ 見学「現代美術鑑賞～教育普及プログラム見学」

テーマ3：平和への感性

■ 分科会「世界のこどもたちの現場から～子どもの権利条約と世界の子どもたち」 ■ ワークショップ「表現アートで学ぶ平和の創りかた・からだで平和を表そう」 ■ 展示会「世界のこどもたち」ユニセフ展 イラクのこどもたちの願い ■ 展示会「ひろしま国」パソコン検定「ヒロシマ検定」

テーマ4：感じる手

■ ワークショップ「手作り楽器と絵本作り」 ■ ワークショップ「わんぱく料理教室」 ■ 分科会「遊びの

中に見ることどもの美意識と感性～遊美学」

【連動イベント】 24日（土）～25日（日）

- 展覧会「広島子供の家 戦後のこどもけんちく」
- アリスガーデン親子パフォーマンス広場AH！

【総括セッション】 25日（日）

各セッションからキーワードによる報告があった。
千代章一郎委員長による総括があり、大会提言案の方向が提案された。

【2010大会（広島）提言】

- 1 環境というキャンバスに未来を描こう（大人・こども）
- 2 身のまわりの体験を語り合おう（こども）
- 3 大人自身が感性をみがこう（大人）
- 4 こどもを見守る技術を身に付けよう（大人）
- 5 未来の平和に向かって本当によいものを語り継ごう（こども）

【2011年度大会（東京）予定】

2011年4月22日（金）～24日（日）開催予定。ご期待ください。

（以上、文責・中山豊）

2010年子ども環境学会大会（広島）提言

1 環境というキャンパスに未来を描こう（大人・子ども）

何かを感じること、何かを表現すること、「感性」は誰もが持っている生きる力の源になるものです。子どもたち自身がその感性を育むことも環境が必要です。しかし子ども環境の整備とは、ハードな施設をつくることだけではありません。危険要因（ハザード）の回避、子育て支援、平等な教育の機会など、健全な子どもの育成を支援することも重要です。しかしそれだけではなく、子どもたちが自由にのびのびと活動できる物理的、社会的、心理的空間を整備することが重要です。遊びがよい例ですが、子ども環境を描くのは子どもたち自身です。大人は子どもたちが環境の種をまく土づくりをしていきます。

2 身のまわりの体験を語り合おう（子ども）

どれほど IT メディアが発達しても、子どもたちが自分の身のまわりのリアルな体験を語る環境が必要です。子どもたちの「身のまわり」の環境には自然もあれば、人もあれば、メディアもあることでしょう。問題は体験そのものの質であると同時に、その体験を誰かに向かって、声を出して語ること。それによって体験によって感じたことがより深まり、語り合うことで他人への思いやりや共感が育まれます。そのような自然・人・物との出会いや触れ合いの場の仕掛けをつくっていく必要があるでしょう。また、メディアを含めた身のまわりに興味を持つこと、それをメディアなどを利用して語り継いでいく取組みを創出し、体験を共有していくことが求められます。

3 大人自身が感性をみがこう（大人）

子どもたちは一人一人が個性を持った主体です。その存在を認め、愛情を持って接するためには、大人自身の感性をみがく必要があります。日々の生活のなかで、子どもたちをありのままに見つめ、その主体性を認め、社会に積極的に参画する機会を保障し、一人の市民として大人と対等になることによって、子どもたちと共に大人の感性も自ずとみがかれていくことでしょう。

4 子どもを見守る技術を身に付けよう（大人）

「見守る」ということは、決して監視するというものではありません。大人が対処不可能な危険要因（ハザード）を回避する環境を整備することは重要ですが、対処可能なリスクに対するセンスを身に付けることも、子どもにとっては重要です。ハザードとリスク、この境界線は地域の環境に応じて様々です。大人一人一人が子どもたちに対してつねに眼差しを向けながら、時には小さな言葉をかけながら、「見守る」行為の技術を身に付けていくことが大切です。

5 未来の平和に向かって本当によいものを語り継ごう（子ども）

感性の表現は自由奔放なだけではありません。古くから受け継がれてきた伝統、新しく創造された文化を自然なかたちで受け継ぐことで、感性は研かれます。本当によいもの、たとえば美術作品鑑賞や自然体験、あるいは伝統芸能の継承によって、子どもたちは美しいものに対する感性を高め、地域に根差した身のまわりの世界を次世代に育む素養を身に付けていきます。それは地球への眼差しと平和への感性を育むことに繋がっています。まちに受け継がれてきた歴史、積み重ねられた時間を誰もが感じられるような体験の場や機会を整備していくことが大切です。

* 提言 1～4 は大会のテーマ 1～4 に対応し、提言 5 は大会テーマ全体を包括する提言です。

A Proposal for 2010 Hiroshima ACE Conference

1. Let us draw our future on the canvas called “Environment” (for Grown-ups and Children)

To feel and to express something – Sensitivity is a source of life force that all humans have. Children’s environment is needed for children to foster the sensitivity by themselves. However, improving children’s environment does not mean just to build equipment and facilities. Avoiding hazards, supporting families raising children, providing equal opportunity are similarly important. Not only that, it is essential to improve physical, social and psychological space to allow children to act freely and in spontaneity. As indicated by a good example in children’s playing, it is children to draw their own desirable environment. Grown-ups are to prepare good soil for children to sow a seed of environment.

2. Let us talk about day-to-day immediate experience (for Children)

No matter how much ICT and web media are advanced, it is necessary to have environment for children to speak about day-to-day real experience. Various components are included in the surrounding environment for children such as nature, humans and the media. The point is not only the quality of the experience itself but also to speak about the experience to someone with a voice. By doing so, what is perceived through the experience will be deepened. And compassion and empathy to others will be nurtured. Such spaces of encounters and interaction should be provided for children. In addition, it is required for children to get interested in surroundings including the media,

3. Grown-ups shall cultivate sensitivity (for Grown-ups)

Every single child is an independent entity with his/her own personality. Grown-ups should cultivate sensitivity by their own to acknowledge the presence of children and treat them with affection. The sensitivity of grown-ups will be naturally cultivated together with children by looking at them as they are, acknowledging their independence, ensuring their opportunities to actively participate in communities so that they can draw level with grown-ups in daily life.

4. Let us acquire the skill of monitoring children (for Grown-ups)

Monitoring children does not mean watching them over to restrict them. It is important that grown-ups facilitate environment to avoid insuperable hazards for children. However, it is also crucial for children to develop their sense of dealing with manageable risks. There are various boundaries between hazards and risks depending on local environments. It is essential for grown-ups to acquire monitoring skills while constantly looking at children, occasionally offering some little words to them.

5. Let us hand down truly great things from generation to generation for the future of peace (for Children)

Expression of sense is not only freewheeling. Sensibility is heightened by inheriting long-held tradition and newly created culture in a natural way. Through truly great things, for example, seeing a lot of art, experiencing the nature, or inheriting traditional performing arts, children can enhance their sensitivity to the beauty and acquire accomplishment rooted in their local surroundings for handing down to the future generations. It is linked with nurturing their look at the Earth and sense for Peace. It is important to facilitate places and opportunities for everyone can feel and experience the history handed down in the town and the time accumulated there.

* From Proposal No.1 to No.4 respectively corresponding to the same conference theme numbers. Proposal No.5 covers entire theme comprehensively.